

令和5年4月7日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、本日は田辺市長退任前最後の定例記者会見となります。
実は最後の最後に、この会場の一部がいつもと違うところがあります。市長、もし気づかれていたら、そちらに触れていただいてから、入っていただければと思います。では、市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

気がついてますよ。香りがするね、まだ。記者の皆さん気がつきましたでしょうか。オクシズ材の演台が新しくご披露されることになったんですね。私の任期に間に合わせていただいたということは大変ありがたいなというふうに思います。見えますか、オクシズ材って書いてあるんですね。おそらく千代にある中山間地振興課の職員の皆さんが頑張ってくれたんじゃないかな。見てるかな。気田担当部長や、太田課長をはじめ、千代の皆さん、本当にありがとうございました。立派なオクシズ材の演台、こっちの方もそうなんですよ。ちらっとさっき見えました。ありがとうございました。市役所3階の茶木魚も大変オクシズ材をふんだんに使っていて好評です。そして、呉服町、七間町にオクシズ材を使ったちょっと腰掛ける所も建設局、経済局のコラボレーションで作っていただきました。やはり静岡市というのは、中山間地域で林業もしっかりあるんだよということをこれからアピールをしていきたいなというふうに思っています。これが4次総の5大重点政策に新たに入ってきているわけであります。どうすればいいんだ。

◆司会

最後になりますので、市長の方から3期12年間を振り返って、市民の皆さんにもメッセージをお願いしたいと思います。

◆市長

はい、わかりました。
3期12年を振り返ってと言いますけれども、2月議会の市政方針演説でも、彰往考来、過去を明らかにして、そして未来を考えるという言葉を用いて、いろいろなことを申し上げましたけれども、できれば今日は12年間、月に2回重ねてきた記者会見の千秋楽ですのでね、どちらかという、過去を振り返ってよりもこれからの未来に思いを馳せて、私の気持ちの一端を、お伝えをできればなというふうに思います。その点では、記者の皆さんの手元に、できたて

ほやほやのまだ湯気が出ているような4次総の冊子が配られておりますので、ぜひご覧をいただきたいと思います。これね、本編と概要版なんですけれど、この薄い方の概要版を、ぜひ、お手に取ってご覧ください。すごく工夫されているんですよ。概要版と書かずにね、トリセツと書いてあるんです。後ろをひっくり返して見てほしい。そうすると裏表紙の右下にね、お名前といって名前を書く欄があるんですね。これどういうことかということ、中学生、高校生にも静岡のまちづくりに関心があったら、これを活用してほしいという思いが込められています。教育委員会にも提案をして、例えば学校の副教材としてね、これを使ってもらえるぐらいわかりやすく編集してくれた。私とあなたみんなの住むまちの未来を一緒に考えてみよう。このトリセツの方を開けてみると、1ページ目に2030年のあなたに2030年のこのまちはどう映っているだろうと呼びかけているんですね。4次総の目標年次である2030年、令和12年ですね。2030年あなたはどこにいてどんな暮らしをしているのでしょうか。その時、あなたの目に静岡市はどう映っているのでしょうか。市民の皆さんにとって素晴らしいまちであるために、その先にある未来へ引き継ぐために、というところから始まって、例えば5ページ6ページ開いてみてください。3次総のスローガンで、国際都市の第一条件は静岡らしさを追求すること。だから無いものねだりをするのではなくて、あるもの探しをしようという呼びかけで、地域資源の掘り起こしと磨き上げをしてきました。それを継承進化するために、もう1回静岡には何があるのかということ、市民の声を生かして7ページ、8ページに、今度は行くわけですけども、こんなものがあるじゃないかと、次は静岡市の今をおさらいしますということで、あるもの探しをしています。そして、この下の所には、あなたが思う静岡市の魅力は何ですかって、ちょっとコメントを書ける欄を用意してあるんですね。そんな形で進んでいって、13ページ、14ページ、8年後のまちづくりの目標は3次総を継承して世界に輝く静岡の実現ですよという展開になっています。ここに文章がたくさん書いてありますけどね。静岡市は東京のような都市を目指しているのでは決していないんですね。人口約70万人、これはヨーロッパでいうとデンマークのコペンハーゲンと同じ人口規模、北米でいうとカリフォルニア州のサンフランシスコと同じ規模なんですね。コペンハーゲンやサンフランシスコ、とっても知名度高いですよ。存在感がありますよね。だから人口70万でも十分に世界に輝く国際都市になれるんだというのが私のビジョンです。サンフランシスコもね。ニューヨークとか、ロサンゼルスみたいな巨大都市ではないんですね。ロサンゼルスじゃなくていいですよ。サンフランシスコは。サンフランシスコの人口規模でサンフランシスコらしさを追求したまちづくりをしているから、世界中から人が集まる。静岡もそういったビジョンの中で、今まではどうしても

まだファースト、極東の日本のそれも地方都市ということで知られてなかったかもしれないけども、世界遺産富士山の麓の政令指定都市静岡市と。地球儀にいずれ Shizuoka と世界中のどこにでも売っている地球儀にね、Shizuoka と表記してある、そんな存在感のあるまちになればいいなというのが、私のビジョンでありました。これをぜひ中学生、高校生にも学んでほしいな、考えて欲しいな、未来に託していきたいな、そんな思いでこのトリセツを作りました。

◆市長

さて、本編の方、5大重点政策で、先程申し上げたように71ページ、72ページ、本編の方には5大重点が、このページから始まります。例えば、先程、オクシズ材のことを言いましたけれども、81ページ、82ページには政策5としてオクシズの森林文化を育てるまちの推進ということで、主な取組の②のところには、これからもオクシズ材の活用促進ということを掲げています。今回は3次総と違って最初からSDGsの国際目標を意識して取り込んで作ってあります。ですから、これからSDGsの目標11住み続けられるまちをとということと、紐づけて中山間地域に住み続けられる環境をつくっていきましょう。そのためには、生活利便性の向上と仕事、雇用がなきゃいけないよねという取り組みを重点政策化していきましょうということでもあります。そして今回3次総を進化させて新たに出てきたのが、子ども子育て政策の強化ということでもあります。73ページ、74ページをご覧をいただきたいと思います。静岡市は6年連続で待機児童ゼロを達成をしました。これも3次総の成果だなというふうに思っています。詳しく申し上げますと、令和4年度、最終年度に施設整備等によって保育定員は107人拡大をしています。それが受け皿になって待機児童ゼロを実現しました。これ6年連続ってね、なかなか他の自治体に無いことでもあります。特に政令指定都市ではね。そして、これを繋いでいただいて、令和5年度は88人さらに拡大するという計画になっています。まだまだね、詳細に見ていると、なるべく兄弟で同じ園に入れるようにしていますけれども、その辺り少し遠くに行ってもらおうとか、少し、まだまだ十分に共稼ぎ中のお母さんのニーズに100%満足していないかもしれないけど、それに向けて4次総でさらに子ども子育て政策は強化をしていきましょう。ですので、スタートダッシュとして、4次総にこの73ページ、74ページに書いてあるように、これも政令市で初めてですね。第2子以降の保育料を完全無償化を実現しますと。これから屋内の遊び場も整備をしますという、大変魅力的な政策が並んでいるわけでもあります。最後に、アートとスポーツにあふれたまちの推進、これもPRしたいと思っています。75ページ、76ページです。これは3次総のまちは劇場の推進の進化形であります。皆さんも精力的に取材していただきましたけれども、先週末の静岡まつりの

人の賑わい、すごかったですよね。もうすぐでマスクも取れるポストコロナの時代になりましょう。3次総の中で、こういう交流人口を拡大をしていこう、そして、定住人口と共に人口活力の一要素にしていこうという取り組みを進めてきました。あの静岡まつりの賑わいを私は目の当たりにして、これはますます可能性があるなというふうに思っています。

◆市長

この75ページ、76ページの主な取組の1のところにありますが、静岡市プラモデル化計画の推進も精力的にやっています。1日の日にも、堀のテラスの脇に徳川家康公の具足をあしらった甲冑のプラモニュメントも御披露されて、たくさんの方々がインスタ映えしますので、写真を撮影をしていました。これは2030年までにプラモニュメント50基、市内で様々な企業に協賛していただいて設置していくという計画を立てていますが、バンダイさんにもね、今いろいろ交渉を始めてね、将来1分の1のガンダム像をどこか静岡市内に持ってきたいなという夢も持っています。長沼工場が一番スペックの高いガンプラを製造していますのでね、言わばガンプラのマザー工場です。そんなこともPRしつつ、地場産業であるプラモデル、これは徳川家康公が残してくれたレガシー、職人精神、ものづくりの精神、クラフトマンシップのまちなんだというアピールにもなると思いますので、静岡市プラモデル化計画も、4次総の中で着々とやって欲しいというふうに思います。そして、まちは劇場という文化芸術政策に加味して、スポーツの力を生かしたまちを作っていこうということも、4次総で掲げています。エスパルスだけではなく、政令指定都市ですから、様々な競技のトップチームがあっただろうと。バスケット、ラグビー、卓球、そして最後は野球であります。WBCの熱狂の追い風を活かして、来シーズンから66年ぶりの13番目のプロ野球球団、静岡ハヤテが生まれる可能性が高まっている。今日午後には、そのハヤテグループとの包括連携協定の締結式を行います。野球の面白さに気がついた子ども達が、将来静岡ハヤテ球団のファンになってもらって、選手に憧れてもらって、スポーツ・イン・ライフ、スポーツに親しんでもらいたいなと思いますし、またトップチームの試合というのは、何千何万という方を集めますので、交流人口の拡大にこれも繋がっていく。地域経済の活性化にも貢献をしていこうと。こんなことも3次総の過程の中での私の気づきで、それをその中に盛り込みました。以上、3期12年を振り返って、むしろこれから未来を考えていく、彰往から考来ということで、皆さんと共に素晴らしい静岡市の未来を夢みたいというふうに思って、次の市長にバトンタッチしたいと思います。本当に12年間、皆様方にはお世話になりました。どうもありがとうございました。

◆司会

はい。それではですね、幹事社質問も今日は3期12年のこととお伺いしておりますので、先に幹事社質問の方をお願いをしたいと思います。

◆朝日新聞

今月の幹事社の朝日新聞です。どうぞよろしくお願いいたします。市長の方からは12年間を振り返るとい言葉が聞けるのかなと思ったんですけども、おっしゃらなかったということで、改めてこの12年間の市政運営についてお伺いいたします。この12年間の中でですね。最も手応えを感じた、これは誇れるというような施策取り組みがあったら、まず一つそれをおっしゃっていただけますでしょうか。

◆市長

まず子ども子育て政策は、こども未来局という新しい局を保健福祉長寿局から独立させて展開をしてきた。そのことによってマンパワーも拡充しましたし、歴代こども未来局長のリーダーシップのもとに着々と政令指定都市としては高水準の子ども子育て政策が実現できたというふうに思っています。

◆朝日新聞

ありがとうございます。では、最も悔いの残る取り組み、政策がありましたら、1点挙げてください。

◆市長

それはやっぱり危機管理ですね。局間連携ということを私は口を酸っぱくして職員に伝えてきたつもりですけども、いざ台風15号の時に、オール静岡市役所の局間連携が必ずしも機能しなかったと。それによって情報の一元化もできなかった。それによって、市民の皆さんへ必要な情報の発信もできなかったと。それが様々なご批判を招いたことになろうかと思えます。それは次の市長にきっちり危機管理の強化ということも4次総に盛り込んでおりますのでね。この教訓を糧にして強く取り組んでいただきたいと託したいと思えます。

◆朝日新聞

ありがとうございました。それらベスト、ワーストを含めてですね。自己採点していただきたいと思うのですが。

◆市長

自己採点は、未来の市民が振り返って田辺市政とは何だったのかと。そういうことで採点してもらうべきことだと思う。よくね、政治家は歴史という法廷の被告人だと。これ中曽根康弘元首相の言葉ですけど、そんなふうに言われます。ですから、さしずめ4次総が終わる2030年ぐらいの時期に市民の皆さんがね、振り返ってみて、田辺市政の12年間というのは何だったのかなということの評価をいただけて、点数をつけていただけるんだらうなというふうに思います。

◆朝日新聞

ありがとうございます。

◆市長

おそらくね、反対運動を乗り越えて清水桜が丘病院JCHOの尾身会長との共同作業の中で撤収という危機を免れて、2年後にオープンをすることになるかと思えます。2030年ぐらいにね、そのことがあの時には田辺に反対だったけども、これで良かったなという評価をいただければ、とっても嬉しいなというふうに思います。

◆朝日新聞

すいません、重ねて恐縮なんですけど、自己採点の点数はつけないとして、合格点は自分でつけられるというふうにお思いでしょうか。

◆市長

私自身は精一杯やってきました。

◆朝日新聞

ありがとうございます。じゃあ、次の質問で間もなく市長選挙が行われて結果が出ます。新しい市長さんに委ねたいことということで、施策面と心構え、それぞれありましたらお伝えください。

◆市長

施策面では、第4次総合計画を継承してほしい。その1点につきます。心構えとすると、局間連携を言い続けていましたので、そのスピリットというのは引き続きお願いをしたい。それからこれも市政方針の中で申し上げましたけれども、私が入り入れた市政運営の1丁目の1番地はニューパブリックマネジメントで

す。つまり、管理型の行政から経営型の行政に変えていこうということです。どうしても行政は、公務員は法律とか条例とか規則とか、いわゆるルールに依拠しがちですけども、コンプライアンスも大事ですけども、一方で市民が求めている価値、バリューに寄り添って、時にはルールを柔軟に運営することも必要だ。民間の持つ力、ノウハウ、スキルも取り込んで、そして公共政策をする時代になったというような新公共経営。これもぜひ12年間、田辺市政がずっと追求してきたことですので、次の市政になってもそれを引き継いでちゃんと職員の文化になってほしいなというふうに思います。私が退いたからもうそれすっかり忘れてしまったということにならないようにしてほしいなと思います。葵舟、これも一つその新公共のいい例です。あれは公共空間で、しかも歴史的な所なので、ここを民間企業の儲けのために使わせないという考え方もあったでしょう。しかし、私はそうではなくて、この公共機関を民間企業の力を使って活性化しようということで、都市局と議論をして、そして今、TOKAIさんが葵舟を運航して、これからポストコロナの時代、きっと経営してくれるというふうに思います。こんなような公民連携の公益性と事業性を両立したビジネスモデルの中で、公共政策を推進していくと、この新しい公共経営、この心構えを次の市長にも託したいと思います。

◆朝日新聞

はい。ありがとうございました。最後になります。12日で任期が満了することになるので、13日以降の身の振り方、幾つかはこれまでの質問に対しては未定であるというふうにおっしゃっていましたが、猶予、そのデッドラインが近づいたということで、身の振り方についてお尋ねしたいのですがいかがでしょうか。

◆市長

相変わらずまだ全く白紙です。あるいは少しゆっくりをしたいですね。社会復帰のリハビリをしなければいけない。例えば12年間、私車の運転ができませんでしたので、やっぱりその車も進歩しますのでね。やっぱりちょっとまだ61なのでね、もう少し運転はさせてもらいたいのでね。

やっぱり車の運転、与一の教習所にもう一回通ってね、車の運転しようかなとかね。万年筆が趣味でしたから、ちょっとこのごろなかなか万年筆ってね、使わないとね、なかなかインクが固まったりして不自由なんですよ。だからちょっとこう万年筆のメンテナンスなんかをして、ちょっと使ってなかった万年筆を愛でいきたいなとか、そんなことを今考えています。

◆朝日新聞

ありがとうございます。また、ご年齢が比較的 60 過ぎということで、政界への復帰といたしますか。こういうお考えは、今のところ可能性はいかがなんでしょうか。

◆市長

やっぱり人生 100 年時代ですので、これから自分は何をするべきかということ、しばらくゆっくりする中で自問自答したいなと思います。そして大事なのはね、例えば、私の恩師の松下幸之助さんは、85 歳の時に財団法人松下政経塾を設立をしてくださったんですね。85 ですよ。その時、思い切って周囲の反対もあったんだろうけども、それを設立してくれたおかげで、私のような普通の庶民のサラリーマンの家庭の私が、選挙にも出馬できたし、秘書をさせていただけるようになった。だから 85 歳の松下幸之助さんの一念発起のおかげさまなんですね。私の人生は。ですから、私もこれからどのようにして生きるのか。その時、やっぱりこの 61 から 65 の 4 年間というのは、新しいフェーズの人生のスタートダッシュとして大事な時だと思うんです。ですから、この 4 年間でどういうふうにご過ごすかということ、ぜひ考えて、何か次の仕事を見つけないかと思っております。それで、あの 61 から 65 歳の 4 年間スタートダッシュできたから次の人生が開けたと、そういう次の生き方が問われると思うんですね。だから、この生き方を問われるから、逆に 3 期で思い切って市長を退任してよかったと振り返って 4 期目、4 次総せっかく作ったからやってみようという気持ちもあったけれども、総合的に考えて今回 3 期 12 年やらせていただいたことで、退任したということがよかったと思えるような人生をこれから過ごしていきたいなというふうに思っています。

◆朝日新聞

ありがとうございました。

◆司会

それでは、皆様からのご質問をお受けしたいと思います。テレビ静岡さんお願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。よろしく申し上げます。先程の 3 期 12 年で最も手応えを感じた誇れる施策として、子ども子育て政策を挙げましたけれども、もう少し具体的にどの部分が誇れるという所を教えてください。

◆市長

具体的にはたくさんあります。今回、その集大成として政令指定都市で初めて第2子以下の保育料を無償化したというのもそうですし、その皮切りはこれも政令指定都市の中では早かった方なんですけども、医療費の減免ということも精力的にやって、あの当時は先進的な窓口負担がワンコイン 500 円ということも大いにありました。それが一つの号令だったというふうに思います。

◆テレビ静岡

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさんお願いいたします。

◆NHK

NHKです。ちょっと今後のために伺いたいんですが、この第4次総合計画というのはここに書いていることを、全てが継承されなければならないものなのか。

それとも次期市長の判断で、あるいは状況の社会情勢の変化で柔軟に変更していいものなのかどうお考えでしょうか。

◆市長

それは基本路線は行政計画なので守っていただきたい。しかし、私3次総を取り進む中でも、コロナ禍によって一時凍結をした時もあるし、それは柔軟に運用をしていかなければいけないというふうに思います。

◆NHK

例えば、3次総には駿府各天守台の再建を目指し、サクラダファミリア方式と市民の協力を得ながら天守台の整備を推進しますという文言が明記されていました。で、その後この8年間で天守台、天守閣はともかく、天守台どうするかというも作らないということでもいいかという合意形成も何もなく、天守台整備は棚上げという報道に対しては、あれは間違いだと声を荒げて批判され、で、結局その文言は4次総から消えています。こういった恣意的な変更、市民との議論のない変更をしても、それはそれでよろしいということですね。

◆市長

そうですね。これはね、まさに記者の質問の趣旨そのものなんです。柔軟に運用しなきゃいけないということです。私は確かにそういう天守台ということ掲げました。しかし、想定外のことが起こってしまったわけですよ。発掘調査をしたら、もう一つの遺構が学術的な大発見があったわけですね。そうすると、これはやっぱり大事な歴史資源だよねと。これを埋め戻すということは、これはいかんだろうという私のあるいは所管下の判断で、それで天守台ということではなくて、遺構を見せる化をするという政策変更をしたわけでありまして。だから、こういうふうな柔軟な運用ということは、やはり社会情勢の変化によって必要だというふうに思います。

◆NHK

わかりました。そして、政治家は歴史という法廷に立つ被告人とおっしゃって、2030年後、2030年の市民に評価してもらいたいとおっしゃる一方で、今の静岡の方々、あるいは県外の方も含めた静岡市長田辺さんに対する評価をどう受けとめているのか。例えば一例ですけれども、先日の川勝知事との面会については、民放の番組のコメンテーターさんなんかは、立つ鳥後を濁さずと言うけれども、飛び立つ瞬間に足でバシャバシャバシャバシャと濁してるようにしか見えなかったと、これをやって何が残ったのか、全然見えてこない自分の存在感をアピールしたかったんですよ。川勝さんの方が大人だという感じがします。田辺さんの子どもっぽい面が出た等々、結構酷評されてます。SNSですとか、いわゆる yahoo コメントなどの書き込みも同様です。こういった現代に生きる方の評価を、市長どう受けとめているんでしょうか。

◆市長

色んな評価があろうかと思えます。それは尊重したいと思えます。ただしね、SNSがこのごろすごく話題になりますけども、やっぱり匿名で自分の言いたいことを言う。そういう言動を私はあまり気にしません。やはり名乗り出てしっかりと私に対する批判ならば、私に対する批判としてきちっと言ってくれたり、そしたら、私はきちっと私の意見を申し述べます。

◆NHK

すいません。私が今、先ほど読み上げたのは実名でテレビで顔を出していらっしゃるコメンテーターさんの発言ですけど、そういった声はどう受け止めていますか。

◆市長

実名で名乗りを上げた方のコメントはどんなコメントでしたか。一つだけ挙げてください。

◆NHK

立つ鳥後を濁さずというが飛び立つ瞬間に足でバシャバシャバシャバシャと濁しているようにしか見えなかった。田辺さんの子どもっぽい面が出た。スポーツの試合の後、肩を抱き合うじゃないですか。でも時々チエツと言っていく人いますよね。あんな感じだった。まあそういう。

◆市長

そうですか。もう本当に残念ですね。私はやはり政令指定都市が失敗だったということを、2016年のG3で発言をされた川勝知事は看過できない。市議会から撤回の要望書も出た。しかし、何ら回答がなかった。それで市長が代わったからといってG3再開します。これは違う。市の職員の気持ち、市民の気持ち、それを考えると、この4年間はできるだけ私は、なかなか言っても無駄だから、静岡市に対して批判をしても私はスルーをしてきた。でも、最後はこのことを伝えなければいけないという気持ちで申し上げました。リニアにしても同じです。私達は2018年、やはり金子社長とは侃々諤々の議論をしました。立ち位置も違ったし、背負ってるものも違う。しかし、会話、対話を交わして、そしてうんそうだよね。2027年1960年代からの鉄道技術のエンジニアの皆さんが培ってきた、積み重ねてきたそういう思いをそういう夢を実現させてあげたいという金子社長の気持ちもおもんぱかって、私自身は2019年が、井川村と旧静岡市の合併50周年だと井川村の悲願は道路をきちっと整備をしてほしい。トンネルを作ってほしいということだった。そういうことを持ち寄って、そして合意形成をした。それが2018年6月の我々の思いです。つまり、JR東海さん事業者の目的と、静岡市の地域振興の目的を譲り合って、折り合って合意をしたわけです。そして、リニアはすべて静岡市を通っている。ですから、私達がこの基本合意をした。県の方も補完性の原理で流域市町もあるから、もう少し時間がかかるだろうなと私達が合意をした1年から2年かな。うん、そういうことでまたやってくれるだろうと思ったんです。でも5年間、残念ながら私の物差しでは1ミリも進まなかった。そのことを私は問題意識として強く持っているので、リニアの課題解決の加速化をしてほしいということをお願いしたわけでありませう。

◆NHK

すみません。市長変わったら G3 開くのは、それは違うとおっしゃいましたが、G3 を開くなどおっしゃってるわけじゃないですね。

◆市長

のどに刺さったトゲを、外さないとそう簡単じゃありませんよ。これは知事に直接申し上げたことです。

◆NHK

それと、これは静大の井柳先生のコメントですけど、そもそもやり残したことや未練もあるかもしれないが、選挙で選ばれた新市長に今後のことは委ねるべきと、市長が今回の会見もそうですけど、次期総合計画に向けてといろいろ述べること自体がおかしいという批判をされてますが、これについては。

◆市長

それは違います。井柳先生、違います。やはり私一人だけではない。市の職員はこれからも継続して仕事するわけですから、やっぱりそんな気持ちも代弁をして新市長に伝えなければいけない。トップだから全てトップの言うことを聞くということだと、トップというのはだんだん裸の王様になってしまいます。やはり職員がどんな気持ちで、県に対して、県知事に対して感じているのか。そのことを私はちゃんと言わなければいけないということです。ご理解ください。

◆NHK

田辺さんご自身は裸の王様ではなかったという自己評価ですか。

◆市長

精一杯私に対して意見がある時には言ってくれということ、言い続けてきたつもりです。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

中日新聞さんお願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。12年間お疲れ様でした。今回任期終了するにあたって、2019年に市長が掲げられた、選挙の前に掲げられたマニフェストを一度確認したんですが、見ると細かく政策を掲げていらっしゃるって、待機児童ゼロだとか、エアコンを小中学校完備だとか、そういうことをかなり達成できているのかなという印象なんですけど、一方で海洋文化施設は2022年度末までに完成するとして、任期中に災害時、情報

◆司会

ちょっとマイクを変えますので、少しお待ちください。

◆中日新聞

すみません。これで大丈夫ですかね。ごめんなさい。達成できていないものがあるという認識で、任期中に災害時を、災害時、総合情報システムを作ると掲げていたり、それはどちらも遅れています。とか、日本平の動物園にゾウの家族を招くという政策もこう市民と約束として掲げてますが、それも達成できていません。その辺のこうマニフェストで掲げたことを達成できなかったことへの受け止めというのはどうですか。

◆市長

達成できなかったことについては、お詫びを申し上げます。

◆中日新聞

そこを理由としてはどうですか。

◆市長

先程と同じように、いろいろ社会情勢の変化があったことによります。例えば、ゾウのことについて言えば、ワシントン条約のハードルがものすごく今高くなっている。簡単に動物の国外移動ということが、できづらくなっている。動物福祉という概念も強く出ていると。その中で、まず最初はタイを交渉相手にして進めたけども、上手くいかなかった。ということがあって、できなかったということでもあります。海洋文化施設もコロナ禍の直撃にあってしまいました。あの時、やっぱり事業所の投資力も減ってしまいました。そういう流れの中で、一時凍結をせざるを得なかったということで、遅れてしまって、この任期には間に合わなかった。ただし、事業所決定しましたのでね。ようやく。これは、

あと3年後に実務をきちきちっと進めてくだされば、これはオープンにできるというふうに思っています。

◆中日新聞

ありがとうございました。承知しました。ゾウの家族を招くという政策とか達成できなかったものは継承してほしいというお考えですか。

◆市長

うん、それは私のマニフェストですのでね。私が達成できなかった。しかし、4年間ではね、なかなか100%公約達成とはいかないんです。ただ、私がこだわったことはずっと夢を追ってきました。プロ野球の球団誘致というのは、初当選の時の12年前の公約なんです。4年間ではできなかったんですね。で、3期目当選しました。そして、観光交流文化局の局長を初め、担当者にね、とにかく12年間でケリをつけたいと。今まで本当にこの夢と一緒に追ってくれてありがとう。この4年間で誘致できなかったら、僕は諦めるよと。プロ野球のことは。だからこの4年間で精一杯やろうということをして4年前に、3期目当選した時に、私局長に申しあげました。わかったということで始まったわけですけども、何とかこの4年間で、親会社になっているハヤテグループとの出会いがあって、NPBも重い扉をファーム拡張構想ということで、制度化してくれて、そしてチャンスが生まれて、そして可能性が、来シーズンの春からプロ野球の球団、庵原球場で静岡球団が誕生する。これは、私はとても夢が実現したなというふうに思っています。すごく達成感があります。

◆中日新聞

ありがとうございます。もう1問ごめんなさい、別の質問だけ、知事との面会の中で、政令市の失敗事例という発言の撤回を求めたと思うんですが、これ明確に撤回されなかったと思うんですが、その認識というか、そこはどうですか。

◆市長

残念ですね。4つのことを要請をお願いしましたけど、野球のことや歴史博物館のことはいいです。うん、あの政令市のこととりニアのことは私の満足のいくコメントではなかった。

◆司会

はい。その他はいかがでしょうか。SBSさんお願いいたします。

◆SBSテレビ

SBSです。12年間お疲れ様でした。12年間の田辺市政を漢字一字で表すといかがでしょうか。漢字一字ですか。うん、何だろうな。人ですね。人。私は若い時恩師にね、公共の仕事をするんだったら、金持ちになろうと思うなど、人持ちになれというふうに言われました。で、充実した人生も人持ちになった方がね、幸せだぞと言われたことがあって。この12年間、本当にいろんな人との出会いがあって、そしてその人達のおかげさまで市長職を全うできた。そういう意味では大変いろんな人と出会えて、そして苦楽を共にした素晴らしい私の人生にとって、12年間だったなというふうに感謝をしています。それから、もう一つ人という意味では、これも申し上げましたけども、市長職を重ねていって、結局まちづくりは人づくりだな。ここにどんな人が住んでいるのかということがすごく大事だなと。三つ子の魂百までだから、教育って大事だなと。で、総合教育会議を活かして教育行政にも力を入れてきました。あの道路を作るとかね。施設を作るハコモノを作るこれも大事ですけれども、それよりも中長期的にはね、人をつくるということが一番大事な公共課題だと思う。私実感として、だって日本って資源もない国だし、結局人じゃないですか。自分さえ良ければいいではなくてね。和を以て貴しと為す。故郷意識を持ったシチズンシップを持ったそういう人、子供を育てていく。そのことはものすごく大事な公共課題だなとそういう意味でも人という漢字を当てたいと思います。

◆SBS

その人づくりは十分にできたのご評価できますでしょうか。

◆市長

これは永遠の課題じゃないですか。ただ例えば市の職員の人材育成にも力を入れてきました。特に世界に輝く静岡の実現ということなので、静岡市の国際化を図ってきました。世界中から人が集まる街にしたいということですからね。そのためには、そういう職員も必要です。そんなことで、外務省に預かってもらってイリノイ州のシカゴの領事館で2年間いい経験をさせてもらった職員が、今帰ってきて、そういう経験を生かして頑張ってくれてますし、また、静岡市とカンヌ市の姉妹都市の提携をもっともっと強めていきたいという中では、パリ事務所に職員を派遣をして、彼女もこの前帰ってきて、国際交流課に配属をされました。そして新しくはこの4月、この今年度から台湾、台北にも職員を送っていきます。そういうことを今までやって、静岡の国際化を背負っていく、そういう職員、人づくりもしてきたつもりです。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

それではお時間も参りました。田辺市長の定例記者会見をここまでとさせていただきます。本日はありがとうございました。

◆市長

12年間お世話になりました。ありがとうございました。ぜひ新しい市長もよろしく願いいたします。